

意見書

平成 21 年 06 月 25 日

総務省総合通信基盤局

電気通信事業部料金サービス課 あて

郵便番号 〒782-0003

(ふりがな) こうちけんかみしとさやまだちょうみやのくち 185 ばんち

こうちこうかだいがくちいきれんけいとう 306B

住所 高知県香美市土佐山田町宮ノ口 185 番地 高知工科大学地域連携棟 306B

(ふりがな) ゆうげんがいしゃないんれいやーず とりしまりやく きくち ゆたか

氏名 有限会社ナインレイヤーズ 取締役 菊池 豊

電話番号

電子メールアドレス

概要：

- ・方式の名称について：方式に対する不適切な命名を是正する必要があります
- ・ネイティブ方式について：ネイティブ方式を不認可とすべきです
- ・説明会の実施方法について：説明会の実施を適切な運用で行って欲しいです
- ・合意形成の手法について：合意形成を行うのに適切な考え方を導入するのが良いです

方式の名称について：

各々の方式に対して「トンネル方式」「ネイティブ方式」という名称がつけられています。後者については技術的に間違った使い方と考えますし、誤解を招く表現であると思います。

ネイティブ方式で用いられる経路制御は、パケットヘッダの送信元アドレスに基づくものです。IP で原理的に用いられる経路制御は送信先アドレスに基づくもので、技術的な用語の使い方として根本から間違っていると考えます。議論の過程で出ていて申請されていない「案 3」と呼ばれた方式こそが

ネイティブと呼ばれて然るべきです。

このような用語の誤用は特に IETF 等での国際標準化プロセスで問題を起こすと考えます。今回、NGN の IPv6 化で問題になったのがマルチプレフィックス問題であり、これは IETF の標準化プロセスにて解決されるのが適当であると考えます。

しかしながら、IETF での場で、NGN での問題が、日本国内の特殊な事情によるものと考えられたために、議論の遡上に登りにくかった側面があります。

今回、native ではない技術に対して「ネイティブ方式」と名前付することは、IETF 等で議論する際に混乱を招き、より日本固有の問題であると言う印象付けをし、国際標準を修正するための活動を阻害する可能性があると考えます。

両者に対する適切な命名は再検討されると良いと思いますが、一案としては、それぞれを「オーバレイ方式」「シングルプレーン方式」というように呼ぶ方法もあるかと思えます。

ネイティブ方式について：

ネイティブ方式を NGN において実現する必要はないと考えます。

まず、ネイティブ方式による ISP の事業形態は、現状の IPv4 で行われているいわゆるローミングサービスに該当します。ローミングサービスを IPv6 化された NGN で行うには、従前のトンネル方式でも可能であり、ネイティブ方式の存在が必須ということはありません。両方式が存在することは、コストを上げ、結果としてエンドユーザに不要な負担を強いることになると考えます。

つぎに、ネイティブ方式が用いる送信元アドレスに基づく経路制御は、ルータでの処理性能が高くありません。今回、ネイティブ方式に「3社」という限定があるのもこのためと考えます。

この経路制御はルータ等の通信装置の実装の主流の方式ではなく、また利用しようとするマーケットも世界全体では小さいと考えられることより、今後も性能の改善や装置の価格の低下は期待できません。

このため将来的にネイティブ方式を、より数の多い通信事業者に提供することはおろか、NGN の規模拡大の際に「3社」という数を

維持することすら困難になる可能性が大きいと考えます。
これを維持するために無用のコストを発生し、結果として
エンドユーザに不要な負担を強いることになる可能性が高いと考えます。

説明会の実施方法について：

NTT 東西地域会社の説明会の開催方法には問題が多く、是正すべきと考えます。

まず、開催のアナウンスが直前すぎます。スケジュール調整が困難で
出席したくても出席できない事業者さんが多いのではないかと思います。
また、地方から何度も出かけるのはコストがかかります。
コストを低減するために格安のチケットを入手するためには、
例えばパッケージツアーの場合は 2 週間ほど前に旅程を固めないとなりません。
スケジュール調整も含めると 3 週間は前にアナウンスすべきと思います。

この他、会議を円滑に進めるために事前に資料配布を行うべきこと、
質疑応答に対する時間の配分、さして重要とも思われない内容の文書を
一律に暗号化して無用の手間をかけさせることなど、
説明会の開催に関して改善すべき点が多々あります。

なお、NTT 地域会社の本社所在地の東京や大阪でのみ説明会が開催されます。
電子的に説明会を行うのに技術的・制度的な大きな問題があるとは思えません。
説明をインターネットのストリーミングで行い、質問をメールやチャットで
受け付けるようにすると良いと思います。

参考までに IETF では、事前に配布資料を web 掲載し、
会議の音声をインターネットストリーミングで流します。
質問をチャットで議長が受け付ける様になっています。
これにより世界中からリアルタイムで参加できる様になっています。

同様のことを行うのは難しくありませんし、より広い参加が可能になり、
多くの意見を集め、効率よく会議を進行することを可能にすると思います。

合意形成の手法について：

今回、NGNの事業者であるNTT地域会社が、意見のとりまとめを実質上行っていました。NTT地域会社の御担当者には、御所属の枠を越えて、日本のインターネットの将来の在り方も含めて議論する場としてお考えの高尚な志の方もいらっしゃいました。

しかしながら、今回のような利害関係の対立するケースで、新方式を推進する側が意見をとりまとめるのでは合意形成が困難であり、根本的に無理なやり方だったと考えます。通信事業においても、建築土木や町づくり等の分野で応用されている、Consensus Building や、Public Involvement と呼ばれる合意形成の考え方を応用することの検討を勧めます。

合意形成をスムーズにできるなら、より事業者間での議論が深まり、技術的・経済的に優れた方式が採用できるかもしれません。例えば今回、トンネル方式による処理オーバーヘッドの議論が十分なされたとはいえませんが、もし、現状の提案に至る時間が短かったなら、PPPoE以外のトンネル方式についての議論が事業者間でなされ、よりオーバーヘッドが小さくスケラビリティにすぐれたNGNを構成できた可能性があると考えます。
